

三春ダム20周年記念
さくら湖自然環境フォーラム
2018



写真：放流試験(4門放流) H9.12.18

期日：平成30年11月9日(金)～10日(土)

場所：三春交流館「まほら」まほらホール

- ★主催：さくら湖自然環境フォーラム実行委員会
(三春ダム維持管理協議会 国土交通省三春ダム管理所 福島県土木部河川整備課
一般財団法人水源地環境センター 応用生態工学研究所 さくら湖流域協働ネットワーク
三春町教育委員会 中妻まちづくり協会 中郷まちづくり協会)
- ★共催：一般社団法人東北地域づくり協会
- ★後援：福島民報社 福島民友新聞社 大滝根川流域生活排水対策推進協議会



さくら湖自然環境フォーラム2018

開催主旨

開催地三春町を含めた「さくら湖自然環境フォーラム実行委員会」では、地域住民が、環境についての認識を深め、地域の自立的・持続的な発展に資することを基本理念に、『さくら湖自然環境フォーラム』を平成12年(2000年)から毎年開催してきました。水質・土地利用・動植物・外来魚などをテーマに、小中学生から専門の研究者までさまざまな立場から、さくら湖に関わる貴重な報告、発表、講義をいただいております。

第19回目の平成30年度は、三春ダム20周年記念事業として、20年間の継続的な研究の成果から、地域の今を観察した報告まで、盛りだくさんの内容を2日間の拡大版として開催いたします。

【1日目】11月9日(金)

さくら湖自然環境フォーラム

三春ダム(さくら湖)ができて20年～生き物の大切さを学ぶ

プログラム

開会のあいさつ さくら湖自然環境フォーラム実行委員会 会長 鈴木 義孝

【第1部】 研究報告・発表 13:05～14:30

(1)『さくら湖自然観察ステーション企画運営委員の活動』

さくら湖自然観察ステーション企画運営委員 山口 登美男 氏

『三春ダムができて20年の自然環境の変遷』

国土交通省三春ダム管理所 専門官 片寄 仁 氏

(2)『三春の自然を守り隊』 三春町立中妻小学校3、4年生のみなさん

『中郷の水環境』 三春町立中郷小学校4年生のみなさん

『お米ができるまで～田んぼで見つけた生きもの～』

三春町立岩江小学校5年生のみなさん

休憩 14:30～14:45

【第2部】 記念講演 14:45～15:50

『生物多様性とはなにか?なぜ守るのか?』

講師 国立環境研究所 室長 五箇 公一 氏

閉会のあいさつ さくら湖自然環境フォーラム実行委員会 副会長 中川 博樹

基調講演

生物多様性とは何か?なぜ守るのか?

講師: 国立研究開発法人国立環境研究所
生物・生態系環境研究センター
生態リスク評価・対策研究室長 五箇 公一 氏

先生から
ひとこと

ミシシッピアカミミガメ、アメリカザリガニ、オオクチバス、アライグマ……。今身近な自然がどんどん外来生物たちに置き換わっています。どうしてこんなに外来生物たちが増えてしまったのでしょうか?

その理由は全て私たちの生活のなかにあります。

今、人間は、自分たちの生活のために自然環境を大きく作り変え、様々な生物たちの数を減らしたり、移動させたりを繰り返しています。こうした活動が、いま野生生物たちの世界に異変をもたらし、結果的に私たちの生活にも危機が迫ってきています。

どうすれば外来生物を減らせるのか?どうすれば生物や自然と共生できるのか? みなさんと一緒に考えてみたいと思います。



講師: 五箇 公一 氏
(ごか こういち)

○ プロフィール ○

- 1990年 京都大学大学院昆虫学専攻修士課程修了
- 1990年 宇部興産株式会社農薬研究部入社
- 1996年 京都大学博士号(論文博士)取得(農学)
- 1996年 国立環境研究所入所
- 2016年から現職,現在に至る。

専門は保全生態学・環境毒性学・農薬科学・ダニ学

著書

『クワガタムシが語る生物多様性』(集英社)
『終わりなき侵略者との闘い』(小学館)

環境省・外来生物法の策定や農林水産省・農薬取締法の改正など、環境リスクにかかる国の法律・制度に専門家委員としてかかわる。

共著

『温暖化事典』(丸善出版)
『感染症の生態学』(共立出版)
『昆虫科学読本』(東海大学出版部)
『人間活動と生態系』(共立出版)
『いきものがたり』(ダイヤモンド社) 他

テレビや新聞等マスコミを通じて、生物多様性の意義や生態リスク管理の啓蒙にもつとめている。

【2日目】11月10日(土)

応用生態工学会仙台 東北地域研究発表会・シンポジウム

三春ダム(さくら湖)は、平成30年度に竣工20年の区切りを迎えた。この間「さくら湖」は、ダム湖の環境に関する研究フィールドとして多くの研究者に利用されており、その成果の多さは、全国のダム湖でトップクラスとして知られている。そこで、これまでの環境調査の成果等を活用して「さくら湖」建設当時を振り返りつつ、現在(約20年後)までの環境変化の特徴を明らかにしつつ、ダム湖等の環境課題に関する研究者の最新知見も踏まえ、「さくら湖」を事例とした、ダム湖の生態系・水質等の環境に関する環境保全のあり方、及び今後の課題等を考える。

主催: 応用生態工学会仙台、三春ダム20周年記念事業実行委員会、さくら湖自然環境フォーラム実行委員会
 共催: (一社)東北地域づくり協会
 後援: (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部、東北環境アセスメント協会
 主管: 応用生態工学会仙台 ※大会実行委員長 梅田 信氏(東北大学大学院工学研究科 准教授)

プログラム

【午前】平成30年度東北地域 研究発表会・・・11:00~12:00

発表テーマ: ダム、河川等の生態系、水質等に関する研究発表

No.	発表タイトル	代表発表者(所属)
1	里山の森林生態系における放射性セシウムの動態把握と将来予測	間瀬 皓介 (千葉大学大学院園芸学研究科)
2	保全措置として移植したフクジュソウ個体群の動態～20年にわたる長期モニタリングから見てきたこと～	稲川 崇史 (応用地質株式会社)
3	三春ダムにおけるオオクチバス防除試験でみられた産卵床の干し上げ数および年齢構成の変化	坂本 正吾 (応用地質株式会社)
4	環境DNAメタバーコーディング手法を用いたダム湖の魚類相把握	速水 花奈 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科)
5	河川と湖における水生生物への放射性セシウム移行	石井 弓美子 (国立開発研究法人国立環境研究所福島支部)
6	アニマルパスウェイの改良設計とニホンリスの利用状況	香川 裕之 (東北緑化環境保全株式会社)
7	モバイルPCR装置を用いた環境DNA迅速検出システムの開発	渡部 健 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
8	水温成層したダム貯水池における微細流動観測	水田 直樹 (東北大学大学院工学研究科)
9	河川管理の現場への環境DNA導入に向けて	鈴木 宏幸 (国立研究開発法人土木研究所)
10	干潟ベントス群集に及ぼす津波攪乱の影響	柚原 剛 (東北大学大学院生命科学研究科)
11	河川植生に着目したUAVによる河川管理の高度化	那須野 新 (株式会社復建技術コンサルタント)

No.	発表タイトル	代表発表者(所属)
12	天然記念物「赤井谷地」における植生再生地の動態	竹原 明秀 (岩手大学人文社会科学部)
13	仙台湾東谷地干潟における魚類群集の時間と空間のβ多様性	村上 純一 (東北大学大学院生命科学研究科)
14	湖沼の二次生産に及ぼす陸上起源有機物の影響:エンクロージャー実験による評価	平間 文也 (東北大学大学院生命科学研究科)
15	河川水辺の国勢調査における環境DNAを活用した夜行性鳥類の把握	山本 和司 (株式会社復建技術コンサルタント)
16	三春ダムにおけるブルーギルの産卵場特性と防除手法	大杉 奉功 (一般財団法人水源地環境センター)

【午後】公開シンポジウム・・・13:00~16:30

「さくら湖ができて20年でわかったこと」

■基調講演 【13:00~14:20】

「“さくら湖”建設当時の環境に対する思い」

伊藤 寛氏(元三春町長)



「ダム湖水質の将来と予防—温暖化と土地利用の視点から—」

占部 城太郎氏(東北大学大学院生命科学研究科 教授)



「環境DNAを利用した生態系観測—現状と今後の展開」

近藤 倫生氏(東北大学大学院生命科学研究科 教授)



■パネルディスカッション 【14:30~16:30】

＜コーディネーター＞

梅田 信氏(東北大学大学院工学研究科 准教授)

＜パネリスト＞

(研究者)

木村 文宣氏((一財)水源地環境センター 主任研究員)

「三春ダム建設後20年間の水質の変化」

中井 克樹氏(滋賀県立琵琶湖博物館 専門学芸員)

「“さくら湖”での外来魚問題への取り組み」

竹原 明秀氏(岩手大学人文社会科学部 教授)

「三春ダムをとりまく植物的自然環境」

(さくら湖管理者)

中川 博樹氏(国土交通省三春ダム管理所長)

「“さくら湖”管理者としての環境への取り組み」

(自治体関係者代表)

鈴木 義孝氏(三春町長)

「“さくら湖”の環境に対する要望」

さくら湖自然環境フォーラムこれまでの実施概要

さくら湖自然環境フォーラムは「さくら湖のよりよい環境の創造をめざして」平成12年度の第1回から平成16年度の第5回までを一区切りにスタートした。その後、平成17年度からは、継続して実施することを確認し合って、第2期の新たなスタートを切った。

第1回目（平成12年度）「さくら湖が出来て自然環境はどう変わったか」

基調講演 応用地質株式会社 大矢 暁 氏「応用生態工学について」
発 表 ・さくら湖周辺の自然環境として植物、魚、景観などについて、それぞれの立場の人たちによる報告
パネルディスカッション①「親しまれるダム湖と地域づくり” 地域の人はさくら湖をどう感じているか”」
パネルディスカッション②「さくら湖周辺の自然環境をどう創出し保全するか」

第2回目（平成13年度）「よりよい水環境を創造する課題」

基調講演 東北大学大学院教授 野池達也氏 「さくら湖流域のよりよい水環境をめざして」
発 表 ・小中学生が自然環境の学習に取り組んだ研究の発表
・環境保全と地域での活用、住民参加によるダム堆積土砂の利用について
パネルディスカッション①「総合学習としての環境学習のすすめかた」
パネルディスカッション②「ダム完成後の環境保全と堆積土砂の地域活用について」

第3回目（平成14年度）「さくら湖流域の環境型社会をめざして」

基調講演 世界水フォーラム事務局長 尾田 栄章 氏「流域の水と環境」
発 表 ・環境型社会と総合学習。自然に向き合い、
ふれあう環境、命の大切さと水、尊さ、生きる力
・環境型社会とは何か。水環境の社会、汚さない社会、リサイクルの社会
・流域の交流と地域づくり、そしてその活動
・県民の安らぎの場としてのレクリエーション基地とダム本来の役割
パネルディスカッション①「水環境を学習の場とした総合学習の取り組み—さくら湖・大滝根川を例として—」
パネルディスカッション②「さくら湖流域の環境型社会をめざして」

第4回目（平成15年度）「さくら湖流域圏としての水環境のあり方」

基調講演 国土交通省顧問 青山 俊樹 氏「これからの暮らしと水」
発 表 ・大滝根川上流域の常葉町の小学校と下流域の小学校児童による水質調査
・ダム周辺の自然環境と自分たちの生活について
・郡山市逢瀬川を軸とした地域の活性化について
パネルディスカッション「流域の環境と子ども達」

第5回目（平成16年度）「大滝根川流域の過去と未来」

基調講演 福島県知事 佐藤栄佐久氏「福島県の環境と水管理」
発 表 ・さくら湖周辺における方言とダム湖底の堆砂利用について
・大滝根川流域の水辺と生き物について
パネルディスカッション「大滝根川流域の過去と未来」

第6回目（平成17年度）「今後の大滝根川流域の川や自然とのふれあいを通じた地域活性や連携について」

基調講演 福島大学教授 鈴木 浩氏「阿武隈川流域の人と水辺のかかわり」
発 表 ・身近な川の観察を通じて見えてきたこと
・大滝根川流域の自然（動物・植物）—ガイドブックの紹介—
・大滝根川の原因と前貯水池の機能
パネルディスカッション「今後の大滝根川流域の、川や自然との触れ合いを通じた、地域活性や連携について」

第7回目（平成18年度）「土地利用と水環境」

基調講演 秋田県立大学教授 松本 聰 氏「土地利用と水環境」
発 表 ・身近な川の観察を通じて見えてきたこと
・地域の自然について
・ダムができてからの気象の変化 風、霧はどうなったか？
・貯水池内の外来魚の状況と捕獲後の有効活用
パネルディスカッション「大滝根川流域のこれからの土地利用と水環境」

第8回目（平成19年度）「三春ダム（さくら湖）ができて10年～ダムとともに歩むまち～」

基調講演 福島大学教授 鈴木 浩 氏「さくら湖水源地域ビジョンについて」
発 表 ・三春ダム建設計画から今日までの歴史 ・南湖の水質とその浄化
・環境問題の取り組みについて ・さくら湖周辺のごみ問題と取り組みについて
・米作りを通しての命の大切さについて ・大滝根川流域ガイドブック地形地質編の紹介
・三春ダムができて10年、ダム管理所の取り組み
・ダム湖における外来魚の現状と三春ダムの試験調査 ・さくら湖で見られる鳥類の面白さ
・三春ダム周辺の水辺の変化～三代アンケート

パネルディスカッション①「ゴミ問題とさくら湖を総合学習の場とするには」
パネルディスカッション②「さくら湖水源地域ビジョンについて」

第9回目（平成20年度）「さくら湖の外来魚を釣って、食べて、考えてみよう」

基調講演 滋賀県立博物館 中井 克樹 氏「自然のバランスをくずす外来生物 琵琶湖で、そしてさくら湖で」
第一部 バス・バスターズ
第二部 フォーラム ・さくら湖流域協働ネットワークからのお知らせ ・移川の水や生き物からわかったこと
パネルディスカッション「外来魚から、故郷の自然を考える」

第10回目（平成21年度）「みんなで守ろう、われわれの流域」

基調講演 日本大学名誉教授 中村 玄正氏「ふるさとの流域を守るために、私たちができること」
発 表 ・さくら湖の里グリーンアップ作戦について ・さくら湖の水質やゴミの現状について
・大滝根川流域ガイドブック「水辺の歴史編」の紹介について
パネルディスカッション「ふるさとの流域を守るために私たちができること」

第11回目（平成22年度）「里山の知恵と暮らし」

基調講演 NPO法人樹木・環境ネットワーク協会理事長 澁澤 寿一 氏「里山の失われたもの、大切なもの」
第一部 ダム湖周りのネイチャーゲーム
第二部 フォーラム 「フォーラム2000の思い出と、その後の活動」 武地 葉子 氏
「三春の里の知恵と暮らし」 石井 善久 氏
パネルディスカッション「三春の里山のよさ、再発見」

第12回目（平成23年度）「さくら湖流域の魅力の再発見」

基調講演 「磐梯山とジオパーク」磐梯山噴火記念館副館長 佐藤 公 氏
発 表 流域にあるお宝
・「さくら湖」をとりまく自然（地形・地質、生き物、水質）
・「さくら湖」周辺の暮らし（歴史、文化、産業）
講 演 福島大学名誉教授 鈴木 浩氏 『『さくら湖』流域の魅力と活かし方』

第13回目（平成24年度）「『さくら湖』の自然環境の移り変わり」

発 表 ・さくら湖自然観察ステーションの事業、活動報告 ・さくら湖周辺の自然と棲む魚の変遷
・ザリガニの研究 ・池の観察
講 演 東京海洋大学客員准教授 さかなクン
「すばらしいみんなの自然をたいせつに！さかなクンの自然とお魚のギョギョッとびっくりなお話」

第14回目（平成25年度）「『さくら湖』流域の自然環境の魅力を見つめ直す」

発 表 ・外国から来た魚に対するさくら湖での取り組み
・小中学生が自然環境の学習に取り組んだ研究の発表
基調講演 埼玉大学大学院理工学研究科教授 浅枝 隆 氏 「岸辺に生える植物が織りなす『さくら湖』生態系」
パネルディスカッション 「研究から見えてきた『さくら湖』の特徴」

第15回目（平成26年度）「『さくら湖』を知ろう～水と水辺のはなし～」

研究報告 「さくら湖の中で何が起きているのか～アオコ発生とその対策～」
三春ダム管理所 水質係長 松崎厚史 氏
発 表 ・『きれいな水を守り隊』からの報告～猪苗代湖と三春ダムの水質調査の比較から～ 中妻小学校4年生
・中郷の水環境 ～川辺の生き物調べ～ 中郷小学校5年生
基調講演 東京工業大学大学院 准教授 吉村 千洋 氏 「川とダム湖が生み出す水辺のエコトーン」
観察体験コーナー ・土砂・水生生物観察体験（ピロティ・展示室）

第16回目（平成27年度）「『さくら湖』を知ろう～ダム湖内の生き物のはなし～」

研究報告 「さくら湖の湖内の生き物たち」 応用生態工学研究所 所長 沖津 二郎 氏
発 表 ・身近な水生生物 中妻小学校4年生
・中郷の自然～生き物・自然についての調査と私たちができること 中郷小学校5年生
基調講演 弘前大学 教授 大高 明史 氏 「湖をのぞいてみよう」
観察体験コーナー ・採水器と透視度計の実技実験（ピロティ・展示室）

第17回目（平成28年度）「『さくら湖』を知ろう～ダム湖内の小さな生き物と水質のはなし～」

研究報告 「さくら湖の水質」三春ダム管理所 専門官 佐々木到 氏
「水を浄化する花壇の研究」 日本大学工学部
発 表 ・田んぼの生き物調査隊 中妻小学校4年生
・中郷の環境 ～守り・受け継ぐ自然～ 中郷小学校5年生
基調講演 東北大学生命科学研究科 教授 占部 城太郎 氏 「ダム湖の小さな生き物—ミジンコのはなし—」
観察体験コーナー ・採取したさくら湖の水に棲む、生きたミジンコを顕微鏡で観察。
・ミジンコの資料を展示し、研究者による説明。採水器実演。

第18回目（平成29年度）「『さくら湖』を知ろう～ダム湖と周辺の生き物のはなし～」

研究報告 「さくら湖の湖岸の生き物」 応用生態工学研究所 稲川崇史 氏
「湖沼に生息するヒメシロカゲロウ（カゲロウ目：ヒメシロカゲロウ科）の分布と生態」
福島大学大学院共生システム理工学研究科博士前期課程環境システム分野 林 宏至朗 氏
発 表 ・身近な水環境を調べ隊」 中妻小学校4年生
・中郷の水環境 ～水生生物調査から～ 中郷小学校4年生
基調講演 弘前大学農学生命科学部生物学科 教授 東 信行 氏「ヒトの作った環境と野生のいきもの」
観察体験コーナー ・煮干の解剖と標本づくり